

二

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

失敗は、怖^{こわ}がり過ぎててもダメ、怖^{こわ}がらなさ過ぎててもダメ。大切なのは、失敗と上手に付き合う方法を見つけることです。

人は、生きているかぎり、必ずいくつかは失敗しますし、事故を起こすこともあるでしょう。

あり得ることは起こります。どうしても起きてしまう「失敗」との付き合い方が上手なひとは、新しいことに果敢^{かん}にチャレンジして、大きく飛躍^{ひやく}するチャンスをつかむことができます。たとえそのチャレンジで失敗したとしても、数々の失敗と上手に付き合いながら積み重ねてきた体験的知識を生かして、どんな挫折^{さつせつ}も乗り越え、さらに成長して、次のチャンスに備えることができます。

逆に失敗との付き合い方が下手なひとは、失敗するかもしれないリスクをひたすら避ける^さので、同時に成功するチャンスも逃^{のが}してしまいます。また、失敗した経験からしか学べない体験的知識も身につけられないため、取り返しのつかない失敗が起こる可能性を低くもできず、実際に大きな失敗が起きてしまったときには、リカバー^{*}して回復す

る方法もわからず、大きなダメージを受けることになりま

す。
では、失敗と上手に付き合うためには、どうすればいいのでしょうか。

予想できる失敗についての知識を蓄^{たくわ}えて、常にその知識を念頭に置いて行動すれば、不必要な失敗を回避^{かいひ}できる可能性は高まります。失敗が致命的^{ちめい}なものになる前の段階で、その失敗の原因や特性を知れば、有効な対応策^{たいおうさく}を考えて、的確な対応が取れるので、失敗が大きくなることを未然に防げます。

ですから、失敗と上手に付き合う上で大切なのは、失敗の種類や特徴^{とくちょう}を整理し、失敗が起こる原因を分析^{ぶんせき}し、失敗が持つ法則性を理解することです。

それらを誰もが理解できるように、論理的（科学的）な視座^{*}からのアプローチによって実行するのが「失敗学」です。まずは「失敗の種類」についての解説から始めましょう。

世の中の失敗は二つのタイプに分かれると私は考えます。

「許される失敗」と「許されない失敗」です。

もっと簡単に言うなら「よい失敗」と「悪い失敗」です。

まずは「よい失敗」について説明します。

「よい失敗」とは「個人が未知なるものに遭遇^{そくぐ}して起きた失敗」です。個人が無知であつたり、あるいは、何かミスして起きるタイプの失敗です。この手の失敗をしたひとは、なんらかの批判やペナルティを受けることになります。その失敗で、ある程度、まわりのひとに迷惑^{めいわく}をかけてしまったのであれば、叱^{しか}られるくらいは仕方ないかもしれません。【1】、あまり責め立てたりするのは避けるべきです。

なぜなら、その「未知なるものとの遭遇による失敗」は、そのひとが成長する過程において、必ず通過しなければならぬものだからです。

失敗なしに人間は成長しません。ひとは失敗して成長し、また小さな失敗を体験して、その分、成長していくというくり返しのなかで、一つひとつの失敗経験から体験的知識^{きしき}を得ることで、次の大きな失敗を起こさないために、徐々に軌道修正^{きどうしゆしん}していくからです。さらには、その失敗経験を将来の成功へと転化することもあるからです。

^B 失敗と成長・発展の関係は、生物学の「系統発生と個体発生^{せうてい}の仕組み」の原理に似ています。

私たちはどのようなプロセスを経て「人類」へと進化したのか、みなさんも学校の理科の時間に習ったと思います。系統発生で考えると、およそ一〇億年前、地球に初めて動物や植物の祖先となる多細胞生物^{たさいぼうぶつ}が登場し、約四億六〇〇〇万年前に魚類が登場、その一部が両生類となり、そこから哺乳類^{ほにゅうるい}が進化して、人類が誕生しました。

一方、私たちは母親の体内で受精卵から赤ちゃんにまで成長しますが、この個体発生においても、やはり系統発生と同様に、受精卵は細胞分裂^{ふんれつ}をくり返して、最初は魚類、次は両生類というプロセスを経て、最後に「人間」の姿となります。

【2】、人類が誕生するまでの系統発生の一〇億年のプロセスが、赤ちゃんが誕生するまでの個体発生的一年足らずのプロセスとして、母親の体内で、再びくり返されているのです。

私は、人類が母親の体内で「魚類↓両生類↓哺乳類」という進化のプロセスをたどって生まれてくることと、人間が失敗から知識を得ながら成長していくプロセスに共通す

るものを感じます。

人類はこれまで、その長い歴史のなかで、さまざまな失敗を経験してきました。その失敗の数々が人類を進化させ、文明を発展させて、現在の私たちの世界につながっています。それは、一人の人間が成長するときも例外ではなく、人類がたどった歴史と同じく、数々の失敗を体験してこそ、初めて成長できるのではないかと思うのです。

この「ひとが成長するうえで、必ず必要となる失敗」が「よい失敗」なのです。

ですから、成長したいと望むひとは、積極的に

「X」失敗」を経験するべきです。

では、「悪い失敗」とはどのようなものでしょうか。

極端に言えば「よい失敗」に含まれないすべての失敗」

が「悪い失敗」と言えます。具体的には「単なる不注意や判断ミスで起こり、そこからは何も学ぶことができず、何度もくり返されてしまうような失敗」です。たとえ他人には迷惑をかけないものであったとしても「悪い失敗」です。失敗したひとにとって意味がなく、反省もされないのが、習慣的にくり返され、やがて大きな失敗につながるリスク

があるからです。

逆に、失敗したひとにとって意味があり、成長を促すきっかけになったとしても、周囲の人間に悪影響を及ぼすような失敗は「悪い失敗」です。

一人の人間が成長するために他人が甚大なダメージを受けてもいいはずがありません。その失敗によって得られるメリットとデメリットを比べたとき、圧倒的にデメリットの方が多ければ「Y」失敗」なのです。

失敗から体験知識を得ようとすれば、一つひとつの失敗が取り返しのつかないほど大きな失敗につながるような気をつけながら、ダメージをリカバーできる程度の「Z」失敗」の経験を積み重ねていく必要があります。

もし、それが「悪い失敗」であれば、いくら経験しても、個人として成長することはできません。

ただし、そこには一つ、課題があります。仕事や日常生活で起きている大小さまざまな失敗のなかでも、経験したときにそこから体験的知識を得られるような「よい失敗」は、決して多くないということです。

ただ、この課題を解決する方法はあります。自分自身の

「よい失敗」だけでなく、他人の「よい失敗」からも体験的知識を得られるようになればいいのです。

そのためには、「自分自身が「よい失敗」をした」という数少ないチャンスが到来したとき、その貴重な経験から体験的知識を得るために有効な取り組みを実践すること^{じっせん}で、失敗の本質を理解して、より確実に「よい失敗」から体験的知識を身につけていく経験の積み重ねが必要になります。

そのような経験を積み重ねていけば、自分が起こした「よい失敗」だけでなく、他人の「よい失敗」からも効率的に体験的知識を学びとれるようになります。

結果、たとえ自分自身で「よい失敗」を経験する機会が

問一 ―線部A「失敗と上手に付き合う方法」とあるが、その説明としてふさわしくないものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 失敗の原因や特性を知り、的確な対応を取る。
- イ 失敗についての知識を蓄え、それに基づき行動する。
- ウ 失敗の種類や特徴を整理し、失敗の法則性を理解する。
- エ 失敗するかもしれないリスクを理解し、ひたすら避ける。

少なくとも、資料として記録されている他人の典型的な「よい失敗」の原因を分析することで、そこから体験的知識を学び、自身の成長につなげられるようになるのです。

(畑村洋太郎『やらかした時にどうするか』による)

【注】

- * 果敢 ― 思い切ってする様子。
- * リカバー ― 失敗した状態を立て直す。
- * 視座 ― 観察する立場。
- * アプローチ ― 接近すること。
- * プロセス ― 過程。
- * デメリット ― 不利益。

問二 【 1 】【 2 】にあてはまることばとして最もふさわしいものを次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア しかし イ だから ウ つまり

問三 —線部B「失敗と成長・発展の関係は、生物学の「系統発生と個体発生 of の仕組み」の原理に似ています」とあるが、どのようなところが似ているか。本文中のことばを用いて説明しなさい。

問四

X

}

Z

 にあてはまることばの組み合わせとして最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア	X…よい	Y…よい	Z…悪い
イ	X…よい	Y…悪い	Z…よい
ウ	X…よい	Y…悪い	Z…悪い
エ	X…悪い	Y…よい	Z…よい

問五 ―線部C「そこには一つ、課題があります」について、次の問いに答えなさい。

(1) 「そこ」とは何を指しているか。解答欄に合うように十二字で書き抜きなさい。

(2) 「課題」の解決策として最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 大きな失敗につながらないように気をつけながら、他人と共に「失敗」の経験を積み重ねる。
イ 仕事や日常生活の中で起きている失敗に常にアンテナを張り、他人と同じ失敗を経験する。
ウ 自分の失敗だけでなく、他人の「よい失敗」の原因を分析することで体験的知識を学びとる。
エ 他人の「よい失敗」のみから学んだ有効な取り組みを実践することで、成功の本質を理解する。

問六 ―線部「よい失敗」と「悪い失敗」について、次の問いに答えなさい。

(1) 筆者が「よい失敗」を経験するべきだという理由を説明しなさい。

(2) 筆者が「悪い失敗」を経験するべきでないという理由を説明しなさい。